

令和 5 年 2 月 16 日

令和 5 年度 B R I D G E 施策の各省庁からの提案募集について

内閣府
科学技術・イノベーション推進事務局
P R I S M (B R I D G E) 総括

令和 5 年 1 月 26 日のガバニングボードにおいて決定した、令和 5 年度の重点課題に基づく施策について、下記のとおり各省庁から施策提案を募集します。

記

1. 募集方法

各省庁からの施策提案

S I P の関連施策については、S I P / P D から各省庁に提案も可
募集様式は別添のとおり

2. 予算規模

B R I D G E 評価委員会の評価を経て、ガバニングボードにおいて配分額を決定。
※これまでの P R I S M 事業としては、数千万円～数億円。
※総額としては研究開発型の予算約 70 億円の範囲内。

3. 募集期間

令和 5 年 2 月 16 日（木）から 3 月 31 日（金）18:00 まで

4. 募集する施策

令和 5 年度の重点課題（別紙 1）に対応した各省庁施策

5. 評価・実施までのスキーム

別紙 2 のとおり

6. 今後のスケジュール

別紙 3 のとおり

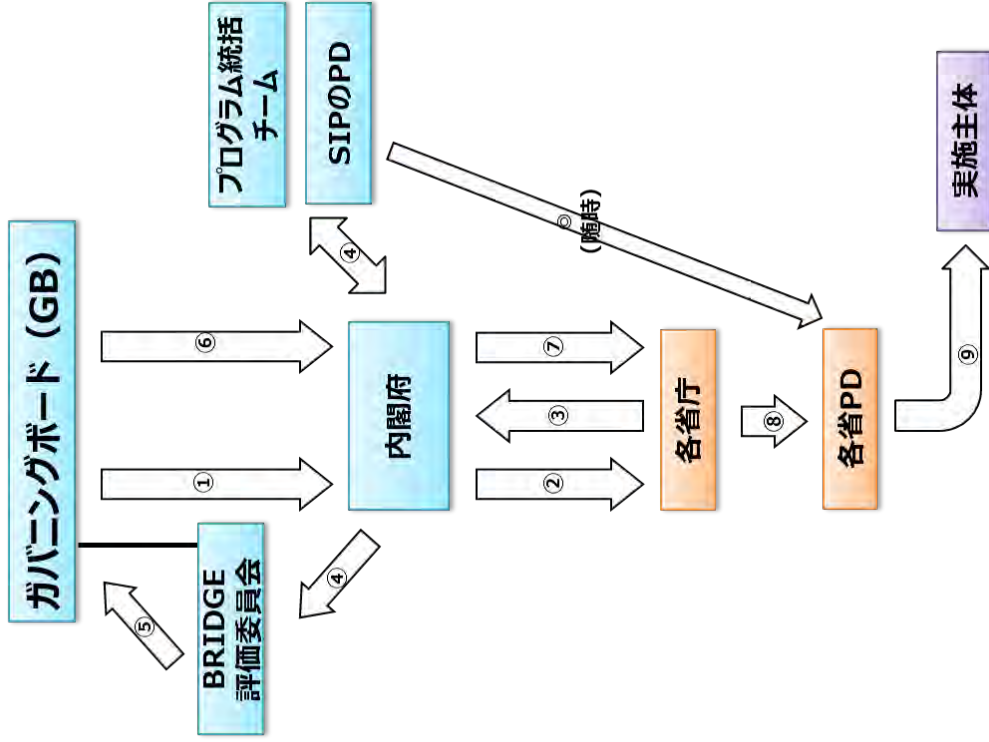
以上

令和5年度BRIDGE重点課題

番号	項目名	概要
1	革新技術等により業務プロセスの転換、または政策全体の転換が期待される課題	各省庁等の業務・政策に対し、革新技術等を活用することによって業務プロセスの転換、または政策全体の転換につながるもの（業務・規制のデジタル化等）
2	次期SIP/FS等で抽出された社会実装に向けた各省庁での取組	次期SIP/FS等を通じて、社会実装に向けて、技術のみならず、事業、制度、社会的受容性、人材の観点から必要な取組として挙げられたもので、各省庁の関連する取組を加速・拡充すべきもの
3	SIP成果の社会実装	これまでのSIP課題の研究成果について、SIP課題に取り巻き経済・社会情勢の変化等を踏まえ、早期実装を図るため、各省庁が主導して、社会実装に向けた取組を加速・強化すべきもの
4	スタートアップの事業創出	SIP等の戦略的な研究開発プログラムの成果を活用したスタートアップによる新市場の創出、早期実装のための事業創出を促進するもの
5	国際的な事業展開を目指す若手人材の育成	革新技術を有する若手人材が国際的な事業展開を目指す取組を支援するもの
6	国際的な研究開発動向や社会ニーズの観点から、研究活動が不足している課題	エビデンス分析等の結果、国際的な研究開発動向や社会ニーズが増大する一方で、研究活動が不足していると判断される課題について、その拡大に取り組むもの
7	各省庁PJでの国際標準戦略の促進	各省庁PJで研究開発されている革新技術について、事業化を目指し、オープン・クローズ戦略を踏まえ、国際標準化に取り組むもの

<BRIDGE運用指針に基づく重点課題の設定等のスキーム>

- ① **ガバニングボードは、毎年度、重点課題を設定。**
- ② **内閣府は、各省庁から、重点課題に対応した施策の提案を募集。**
※**複数の重点課題に対応した提案も可能。**
- ③ **各省庁は、施策の提案に当たって、施策の名称、各省PD、対象とする事業の概要、事業費及びそのうち推進費の配分を要望する額、事業期間、事業終了後のエグジット戦略を記載した**研究開発等計画の案を作成し、内閣府に提出。****
- ④ 内閣府は、SIPのPDその他の有識者、プログラム統括チームにそれぞれ意見を聴取し、BRIDGE評価委員会に報告。
- ⑤ **BRIDGE評価委員会は、施策の研究開発等計画について、事前評価。**
- ⑥ **ガバニングボードは、BRIDGE評価委員会での事前評価の結果を踏まえ、対象となる施策、推進費の配分額、事業期間を含む**実施方針を策定。****
- ⑦ 内閣府は、実施方針に基づき、各省庁の対象となる施策に対して、推進費を配分。
- ⑧ 各省庁は、各省PDを任命。
- ⑨ **各省PDは、BRIDGE評価委員会による評価及び実施方針に基づき、研究開発等計画を策定し、当該研究開発等計画に基づき、施策を推進。**
※**研究開発・施策の対象とする事業の実施に当たって、特定の技術・設備・施設等を活用することが不可欠な場合などやむを得ない場合を除き、公募を実施。**
※**各省PDの業務のうち、対象とする事業の実施者の公募及び契約の締結、進捗管理等のマネジメント業務について、所管する独立行政法人を活用することができる。**
- ◎ SIPに関連する課題がある場合には、当該SIPのPDがSIPの推進委員会での意見を踏まえつつ、提案、助言及び支援を実施。(随時)



今後のスケジュールについて

令和5年

6月配分の場合

- 2月16日 各省庁からの施策の提案募集（テーマ、配分額、事業期間（3年以内）、出口戦略等）※募集期間は1か月程度（2月16日～3月31日）
- 4月上旬 SIP/PD等の各分野の動向に係る有識者やプログラム統括等の横断的な視点の意見聴取 ※1か月程度
- 4月下旬 BRIDGE評価委員会での評価（～5月中旬までに）
- 6月中旬 ガバニングボードで実施方針の決定
- 6月下旬 各省庁への予算配分

（参考）9月配分の場合

- 6月中 各省庁からの施策の提案募集（テーマ、配分額、事業期間（3年以内）、出口戦略等）※募集期間は1か月程度
- 7月中旬 SIP/PD等の各分野の動向に係る有識者やプログラム統括等の横断的な視点の意見聴取
- 8月中旬 BRIDGE評価委員会での評価
- 9月下旬 ガバニングボードにおいて実施方針の決定
- 9月末 各省庁への予算配分

〇〇〇〇 (対象施策名)

研究開発とSociety 5.0との橋渡しプログラム (BRIDGE)

研究開発等計画書 (令和5年度様式)

令和〇年〇月
〇〇省

○実施する重点課題に○を記載 (複数選択可)

業務プロセス転換・政策転換に向けた取組	次期SIP/FSより抽出された取組	SIP成果の社会実装に向けた取組	スタートアップの事業創出に向けた取組	若手人材の育成に向けた取組	研究者や研究活動が不足解消の取組	国際標準戦略の促進に向けた取組
						—

○関連するSIP課題に○を記載 (主となるもの)

持続可能なフードチェーン	ヘルスケア	包括的コミュニティ	学び方・働き方	海洋安全保障	スマートエネルギー	サーキュラーエコノミー	防災ネットワーク	インフラマネジメント	モビリティプラットフォーム	人協調型ロボティクス	バーチャルエコノミー	先進的量子技術基盤	マテリアルの事業化・育成エコ

提案するBRIDGEの対象施策と統合イノベーション戦略や各種戦略等、SIPの関連する課題、各省庁の関連施策との関係や位置づけ等について全体像が分かるような図表等で簡単に記載すること。
既存の図表がある場合には、貼り付けても構わない。

S I P / P D の提案・意見

【背景・現状・課題】

【施策内容】

BRIDGE実施期間中に取り組む内容を記載してください。
なお、本項目については、ガバニングボード実施方針に転記する。

【研究開発等の目標】（BRIDGE実施期間で目指す目標）

記載例：
・スタートアップ企業を発掘して、大企業との連携、VCからの資金支援等、事業化の目途をつける。
・SIP成果の生産性の向上等の技術実証を行い、企業による事業化に向けた目途をつける。

【社会実装の目標】（BRIDGE終了後の社会実装の目標）

記載例：
・SIP成果について、各省プロジェクトに反映する。
・スタートアップの上場やパイアウトにつなげる。
スタートアップによる新たな市場の創出や社会実装の早期実現。

【対象施策の出口戦略】（BRIDGE終了後に各省庁で実施する施策）

記載例：
・実証成果等については、制度整備に反映する。
・作成したシステムについては、利用者や実需者による管理のあり方を検討し、省として調達する。

※記載にあたっては、研究開発とSociety5.0との橋渡しプログラム運用指針に記載されている、評価基準（BRIDGEの制度との整合性、各種戦略や重点課題との整合性、等）の他、各省庁の関連施策に反映が見込める施策（又は反映を目指す施策）であるか等を踏まえて記載してください。また重点課題の要件や評価基準も参考に記載してください。

資料3 「対象施策名」のBRIDGEの評価基準への適合性

○統合イノベーション戦略や各種戦略等との整合性

統合イノベーション戦略や各種戦略にどのように位置づけられているか記載

○重点課題要件との整合性

各要件にどのように該当しているのかを記載

○SIP型マネジメント体制の構築

BRIDGE運用指針に記載している、SIP型マネジメントの必須要件を含めどのような体制構築を予定しているのか等を記載

○民間研究開発投資誘発効果、財政支出の効率化

定量的に記載

※民間研究開発投資誘発効果は、BRIDGE対象施策を実施することにより、各省庁の施策が拡大・加速化し、その効果により民間投資が拡大した姿を、適当な指標を用いて試算するなど、できる限り定量的に記載

○民間からの貢献額（マッチングファンド）

提案時に記載できない場合は、目標を記載。

※BRIDGE対象施策の研究開発・実証等に参画する民間企業等の人的・物的貢献を金額的に評価したもの

具体的には、社会実装に向けた民間での取組に係る経費全般が対象（新規購入費／保有品利用料、バックグラウンドIPを含む対象知財全般、技術開発だけでなく事業戦略策定・ルール形成・標準化に係る人件費、テーマに係る革新的技術のための人材育成費用等の5つの視点での取組に係る費用）

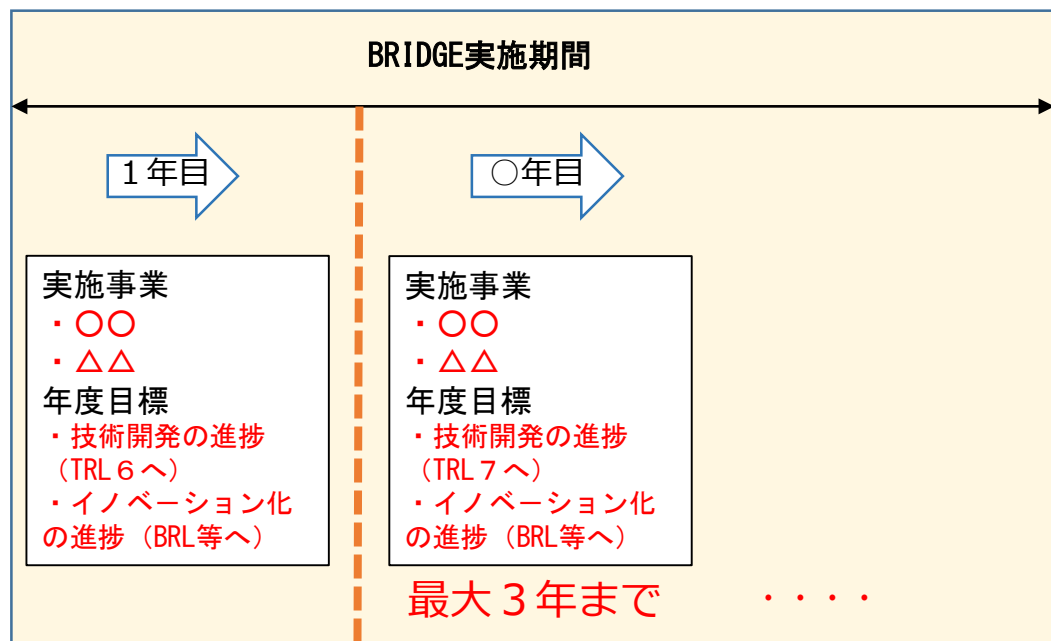
※※今回アドオンすることに対する後年度の民間企業からの貢献額・内訳等も分かるように記載

※※※25%以上としない理由があればその旨記載

○想定するユーザー

成果の活用を見込む企業等からのニーズ等を記載。企業名の記載も可

資料4 イノベーション化に向けた工程表

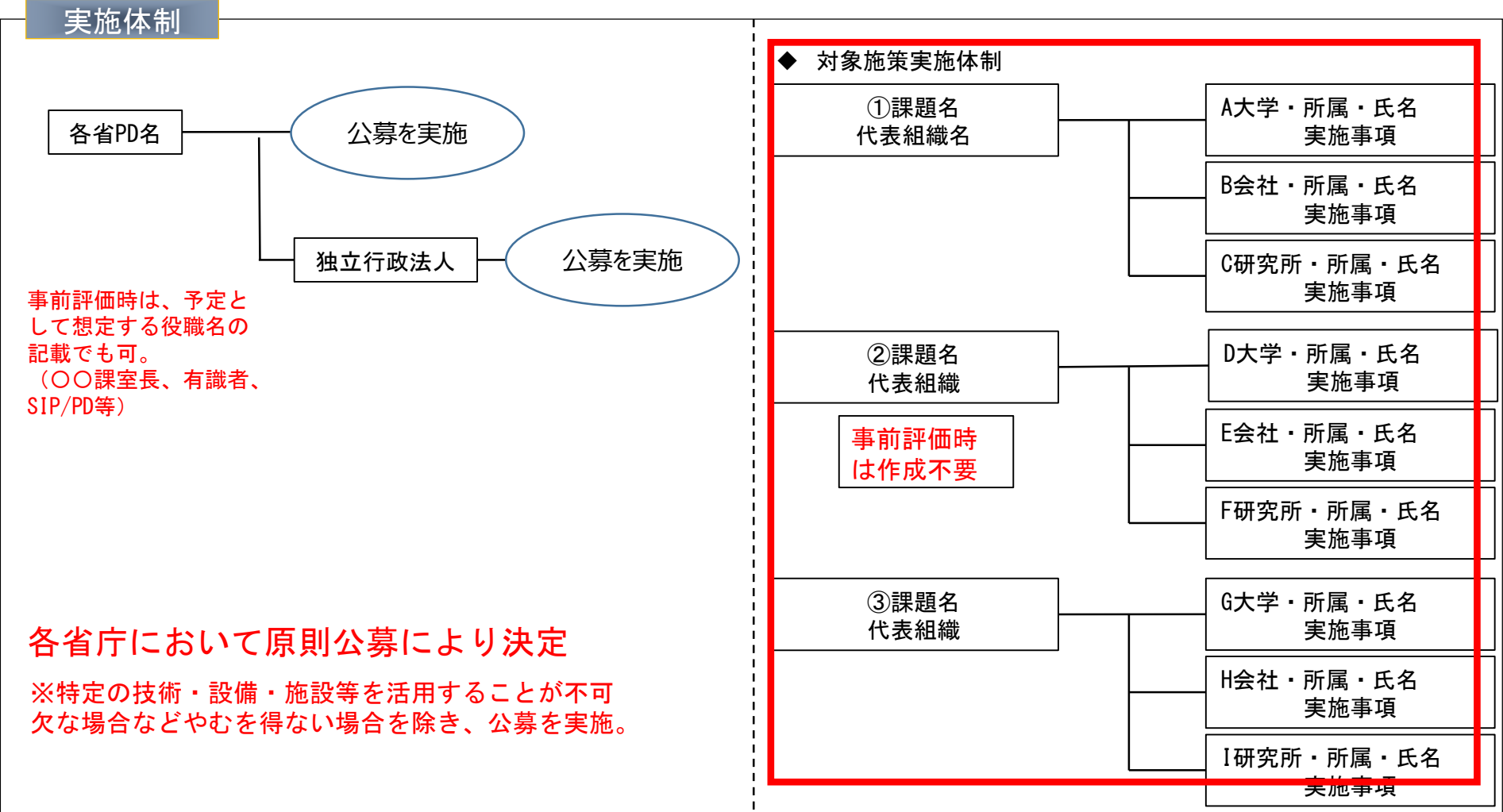


S I P第3期で導入する「社会実装に向けた指標」※を用いて、技術開発の進捗 (TRL) に加えて、イノベーション化の取組についての進捗 (BRL等) について、年度目標等として定める。

- ※TRL (技術成熟レベル)
- BRL (ビジネス成熟度レベル)
- GRL (ガバナンス成熟度レベル)
- S (C) RL (社会 (コミュニティ) 成熟度レベル)
- HRL (人材成熟度レベル)

出口戦略





資料6 「対象施策名」の目標及び達成状況(1年目)

○施策全体の目標 ・ ・ ・ ・ (説明)。

テーマ等 (※個別に目標を設定している場合)	当年度目標	目標の達成状況 (年度末報告)
①	<p>各年度ごとに目標を設定</p> <p>※S I P第3期で導入する「社会実装に向けた指標」を用いて、技術開発の進捗 (TRL) に加えて、イノベーション化の取組についての進捗 (BRL等) について、年度目標等として定める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み内容を記載 ・ 目標が達成できなかった際の、原因等の分析 次年度以降の取り組みへの影響等
②		<div data-bbox="1500 668 1719 946" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>事前評価時 において、 目標の達成 状況欄には (一) を記 載</p> </div>
③ 以降、必要に応じて枠を追加		

原則 1 ページにまとめること。

令和〇年度のテーマごとの予算内訳を示す。（2年目以降目については、次ページに記載）

項目		積算内訳（主な経費）	予定額 （百万円）	備考
〇〇省 科学技術イノベーション創造推進費 〇〇運営費交付金	テーマ 1	〇〇のデータベースを構築 一式 〇〇の技術実証を実施 〇〇件 〇〇基準等の作成 〇事例 〇〇システムの開発 一式 〇〇技術の開発 一式 研究者の雇用 〇人/年 〇〇ユニットの設置 〇件	〇〇〇	
	テーマ 2	〇〇のデータベースを構築 一式 〇〇の技術実証を実施 〇〇件	〇〇〇	
その他、必要な事務局経費 等	共通経費	一般管理費	〇〇〇	

- ・ 該当年度に取り組む内容を記載し、それに必要な経費を百万円単位で記載してください。
- ・ 一般管理費については、総事業費の 1 割程度。

【参考資料】各資料の最後に添付する。

※資料以上に、理解を促進するために、参考
（補足）資料の添付は可能であるが、必要最小
限とすること。
（全体で40ページ以上の場合は再考を依頼し
ます。）